

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		事業所における自己評価結果			
		公表日 令和7年 11月 21日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10			
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		・定員に対し、5人以上の職員を配置している ・状況に合わせて、環境設定を工夫しながら安全に配慮している	職員が送迎に出てる時や子どもが落ちつかない時、職員の急な病欠が出た時に、十分な支援が行き届かないことがある
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		マグネットや絵カードなどを用いて、視覚的に分かりやすくなるよう環境設定をしている	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		毎日の清掃の他、月に一度の重点箇所の清掃を実施している	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		・不安が強い子は支援ルームから離れた空間で気持ちが切り替えられるよう配慮している ・必要に応じて衝立を活用し、個別の空間を作るようしている	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		ほぼ毎日ミーティングを行っていて、目標と振り返りを話し合っている	非常勤職員の意見を聞く機会が少ないので意識的に作っていくようにする
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		評価表集計後にミーティングを行い、業務改善に向け話し合っている	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		毎日ミーティングが行われ、出席していない非常勤職員にも共有している	非常勤職員の意見を聞く機会が少ないので意識的に作っていくようにする。非常勤職員を含めた会議の開催、参加が難しい職員には支援後に時間を作り、意見を聞いていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1	行政書士に毎月訪問してもらい、評価してもらっている	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		・定期的に社内研修が行われている ・外部研修の案内をしたり、受講を促している ・非常勤職員も研修が受けられるよう工夫している	外部研修が午後の支援中の時間に設定されていることが多く、参加できる職員が限られてしまう
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		支援プログラムに基づき、その日その日に利用する子どもに合わせて支援を考えている	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		1年に2回以上、対面での面談を実施し、しっかりとアセスメントを行っている	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・内容を個別支援会議で検討している ・子どもの支援に関わる職員による支援記録や、担当職員による個々の支援経過記録の内容も計画に取り入れている	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		計画は全職員に周知され、いつでも閲覧できるようにしてある	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		・子どもひとり一人の担当職員を決め、定期的に支援の評価や見直しを行っている ・発達検査の結果を保護者から頂き、全職員に共有している	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		ミーティングでイベントの案を出し合っている	イベント案を今後非常勤職員にも出してもらうようする

供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		・環境設定を曜日毎に立案し、その日の子どもの状況に合わせて取り組んでいる ・環境設定を行う時は、固定化しないように気を付けています	療育方針として、子どもが主体的に取り組む身体を使ったあそびをメインにしているが、同じような内容が続くこともある
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		状況に応じ、一人ひとりに対応した支援を行っている	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		支援前にミーティングが行われ、非常勤職員にも共有される	土曜日や園の長期休み中は支援前に打ち合わせの時間がじゅうぶん取れず、書面のみでの共有になることがある
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	3	・その日の支援記録に記入したことを、翌日のミーティングで報告、相談している ・支援後は難しいので、次の日のミーティングで振り返りや共有を行っている	支援終了後は送迎や支援記録の記入があるため打ち合わせが難しい。重要なことはすぐに共有するようとしている
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		毎日全利用者の記録をとり、翌日のミーティングでその内容について共有している	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		1年に2回以上、対面での面談を実施している	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		主に児童発達支援管理責任者と法人代表が参加している	サービス担当者会議は午後に行われることが多く、指導員の参加が難しい
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		・全ての関係機関と連携を行うことが難しいが、子どもと密に関わっている機関とは連携できている ・主治医との直接連携は難しいが、受診時の助言や発達検査の内容は共有してもらうようしている	保育、教育機関との連携がスムーズにいかない場合がある（子どもの理解が十分ではなく支援の必要性を感じてもらえない、忙しくて時間がつくれない等）
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		特に保護者が心配を抱えていたり、園で適切な支援が行われていないと感じる場合は園見学に行き、特性や支援内容について情報共有するなど積極的に介入している	園であまり問題がない場合、支援内容の積極的な情報共有は行われないことがある
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		特に移行先での情報共有が必要と思われる場合は相談支援事業所とも連携し、担当者会議を開くなどして積極的に介入している	就学する全ての子どもについて情報共有することが難しい場合があり、その場合は保護者経由での情報共有になる
	28 (28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31 (31は、事業所のみ回答)			研修や交流会に参加している	児童発達支援センターとの直接の連携が難しいと感じる
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	1		
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	3	7	地域との子ども達との交流はないが、近隣の高齢者施設との交流があり、地域交流の機会は増えている	保育所等とどのように交流を行うか検討していく必要があるが、公園や児童館に出かけることで地域の子どもと交流する機会はある
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		連絡帳や送迎時に共有している	・送迎時に保護者と話す際、他の子どもを車に乗せている場合はあまり時間を取れないで、必要であれば電話やメールで伝えている ・支援中に連絡帳を時間をかけて書くことが難しい
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	講座としてのペアレントトレーニングは未実施だが、保護者の不安や悩みがあれば、電話や面談で情報を共有し、対応力向上に向けて助言したり、共に考え、支援している	保護者向けの勉強会の案内が少ない
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		計画作成前に必ず対面で面談を行うようにしている	利用児が低年齢のため、子ども自身に意向を確認することが難しい

保護者への説明等	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		モニタリング時の面談以外にも必要に応じて面談を行っている、定期的に発達相談会を行っている	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2	2か月に1回のベースで保護者交流会を開催している	きょうだい同士で交流する機会をどのように作つていったらいいのか検討していく必要がある
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		すぐにミーティングで共有し、対応を考えるようにしている	職員の出勤がシフト制のため、営業日に全職員が出勤しておらず、対応が遅れてしまうことがある
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		月に一度、保護者向けに通信を発行している。また、ホームページで活動の様子を発信している	
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			ごく稀に子どもの持ち物が他の子どもの荷物に混ざってしまうことがあるので、じゅうぶん気を付けてていきたい
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	3	ハロウィンイベントで近所のお店等を回り、交流を行った	・事業所の行事に地域住民を招待することはなかなか難しいので、まずはこちらから出向いていくようにしたい ・どんな交流方法があるのか知りたい
	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		・ファイルにまとめ、職員誰もが閲覧できるようになっている ・訓練を定期的に行っている	・シフト制のため、全職員が訓練に参加することが難しい場合がある ・非常勤職員が訓練に参加することが難しい
非常時等の対応	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		訓練を定期的に行っている	非常勤職員が訓練に参加することが難しい
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		・契約時に聞き取りを行い、何か状況が変わった時は必ず知らせてもらうようお願いしてある ・モニタリングの面談時に変わったことがないか確認している	服薬を始めた場合は伝えてもらえることがほとんどだが、薬の内容が変わった時に連絡をもらえず把握できていないことがあった
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		・ダブルチェックを徹底している ・保護者から対応方法をお伺いして対応している	
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・訓練、研修を定期的に行っている ・安全管理について、日々のミーティングで話し合い、共有している	
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		契約時、その他必要に応じてお話ししている	
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		ヒヤリハット事例については必ずミーティングで話し合うようにしている	
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		非常勤職員含めて全ての職員が定期的に研修を受講し、セルフチェックシートも提出してもらい、必要な対応をしている	
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行つかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8			